

第2回班会議（H24年度）議事録

日時：平成24年9月30日（日）13:30~14:30

場所：コンベンションルームA P東京八重洲通り 12階 会議室D + E

出席者（敬称略）

倉田二郎、大城宜哲（代理：前田吉樹）、齋藤 繁、荻野祐一、福井 聖、大鳥精司、西原真理、竹林庸雄、川上 守（代理：中尾慎一）、越智光夫（代理：平松武）、川口 浩、松本守雄、住谷昌彦、紺野慎一、矢吹省司、関口美穂、二階堂琢也

議題

1) 計画書等資料の配布：事務局

- ・ 事務局より倫理委員会提出書類の説明があった。
- ・ 各施設で本研究について倫理委員会を通す。
- ・ 必要書類を後日電子ファイルで送付する。
- ・ 倫理委員会提出書類の研究責任者については各施設の指針で決めてよい。

2) Voxel-based morphometry (VBM)の概要説明：福井聖先生

- ・ 事務局からの案としては、これまでにMRスペクトロスコピーを導入していない施設では始めるのは困難であり、まず、滋賀医大と福島医大で行う。MRIを撮像できる施設でDICOMデータをPCにソフトをインストールできる環境があればVBM解析は可能であるため、導入するかどうかは各施設で検討する。
- ・ 福島医大（矢吹先生）でお願いしているMRI施設の放射線技師では、解析に最も時間を要し、1時間はかかる。
- ・ VAADという解析ソフトで国際的に認められている結果は得られているのか、妥当性は得られているのか（publicationの実績の有無）との質問があった。滋賀医大MRI医学研究センターで開発されたソフトであり、これまでにそのソフトを使った論文があれば、福井先生から情報をいただく。

3) 担当症例数（案）の確認と修正

- ・ アンケート調査票、医師記入票は全施設共通であることが説明された。
- ・ 各研究施設での担当症例数の案について説明があった。

- ・ 症例の確認：
エントリー基準については、手術既往患者は除外する、関節疾患は膝に限定する、術前の患者は対象にして良い。腰痛と膝関節痛の両方ある症例では、あきらかにどちらかの症状が強い症例、病態が分かりやすい症例をエントリーする。今後、具体的な疾患を示した Inclusion criteria を明確にした対象者の選択基準のフローチャートを作成して事務局より送付する。
- ・ 調査は1回のみ施行する。
評価システムが確立した後の研究3年目の目標として、再現性の検証である二次調査、治療への反応をみる三次調査を行う。
- ・ 来年の7月までを目安に目標症例数を集める。

4) その他

- ・ アンケート用紙については、冊子を作成して各施設に送る。
- ・ 調査票の最後の英語部分は削除したほうが分かりやすいとの指摘があった。
最終版では削除する。
- ・ 西原真理先生から医師記入用シートでの追加項目の提案があった。
失感情症の質問、理解力・知的障害の質問を追加する。

今後の予定

- ・ 次回の班会議に合わせて合同報告会をやることを検討する。
各グループから現在進行している研究の内容について報告してもらう。
- ・ 次回の班会議の日程は、メールで調整する。次回の会議は平成 25 年 1 , 2 月頃に計画する。